

## 令和5年 患者総合支援センターの取り組み

1

### 紹介率・逆紹介率

コロナ禍で患者さんの受診行動に変化が生じたことで、一時的に紹介率・逆紹介率が下がっていましたが、令和4年度の年間集計では紹介率82.7%、逆紹介率92.2%と、回復傾向となっています。今年度も約80人の医師の交替がありましたので、引き続き急性期治療が終了した場合は、紹介元医療機関に逆紹介するという当院の方針を根付かせていきます。

#### ◆令和4年度紹介率・逆紹介率 (%)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
紹介率	84.8	84.2	82.6	77.3	74.4	83.0	84.9	83.1	83.8	87.3	82.8	86.1
逆紹介率	97.0	90.9	90.6	87.5	86.0	89.5	88.9	81.8	65.8	97.8	96.9	106.7

2

### 入退院センターの充実

高度急性期病院である当院の平均在院日数は10日程度です。入院（産科と小児科以外）が決まった患者さんに行く「入院支援」と、退院支援スクリーニングを行い必要な支援を行う「退院支援」を機能させ、少しでも安心・安全に入院生活および退院後の生活が送れるように支援しています。社会的な課題を抱える方々の相談も増えていますので、院内の入退院システムを基盤に、引き続き関係機関の方々と連携を取りながら患者さん個々にとって最善の支援ができるよう努めていきます。

3

### がん相談支援センターの取り組み

がん治療に多くの選択肢が増えたことで、治療を受けながらの生活も長くなっています。がん診療連携拠点病院である当院には専門の相談員が対応するがん相談支援センターがあります。また、「がん患者サロン」「がん体験者によるピアサポート」「社会保険労務士によるお仕事相談」「脱毛ケア・ウィッグ(かつら)無料相談会」も開催しています。多くの方々にご利用いただけるようPRも工夫していきます。

4

### 地域連携のDX化の取り組み

長らく病院間転院調整は電話とFAXで行っていましたが、非効率だったため藤沢市内14病院で運営している「藤沢市病院連携推進協議会」で転院調整システムを構築し、現在このシステムを通して年間約3,000件の転院調整を実施しています。令和5年度は、この取り組みを茅ヶ崎・寒川地域の病院にも拡大していく予定です。また病院と介護施設、病院と在宅支援診療所とのネットワーク拡大も進めていく予定です。

5

### 病院間交流を実施、さらに研修拡大

昨年度は市内14病院間で相談員（MSW・看護師等）同士の交流研修を実施しました。これは、病院の機能や特徴を知るために互いの病院に出向き、レクチャーを受け、院内見学や対話をするおおむね2時間の研修となっています。顔の見える関係になり、さらに病院の様子を肌で感じることができるとその後の関係性が格段に良くなります。今年度は地域関係機関の皆様との交流研修を計画していきます。

藤沢市民病院

地域医療連携だより



2023年5月  
Vol.52

〒251-8550 藤沢市藤沢 2-6-1  
Tel 0466-25-3111 (代表)  
Fax 0466-25-3182 (直通)

## 院長就任のあいさつ

藤沢市民病院 院長 西川 正憲

連携登録医の皆さまには、日ごろから当院の運営にご協力いただきまして感謝申し上げます。2023年4月1日に院長に就任しました西川正憲です。

西川は、1989年から2年間と2000年から現在まで、通算して25年を超える歳月を、この素晴らしい当院で、さまざまな経験と研鑽を重ねてまいりました。また、複数の学会や機関での役職を任じられるようになりました。私の大好きな当院で院長を拝命することができますことは、皆さまをはじめ西川を支えてくださる全ての人たちからのご厚意の賜物であり、心から感謝申し上げます。

当院は、1971年の開院以来、藤沢市医師会、藤沢市歯科医師会、藤沢市薬剤師会をはじめ地域の医療機関、連携登録医の皆さま方との緊密な診療連携を大切にしながら、皆さまから信頼される地域の基幹病院・高度急性期病院として、常に「より良い医療」を提供するべく運営しています。皆さまのご支援ご鞭撻ご協力を賜りながら、地域医療支援病院、救命救急センター、地域がん診療連携拠点病院、小児救急医療拠点病院、県周産期救急医療中核病院、災害拠点病院、第二種感染症指定医療機関、臨床研修指定病院などの認定・指定を受け、湘南東部二次保健医療圏に限らず、神奈川県を代表する病院の一つとして発展することができています。



新型コロナウイルス感染症は、現在まで3年以上にわたり8回の大流行を繰り返しました。新型コロナウイルス自体の変異、病原性および感染後の重症化などについては未知なことも多く、新型コロナウイルス感染症は今後も当面続くことが考えられます。

当院では、引き続き適切な感染管理体制を継続し、「新型コロナウイルス感染症と共存する地域基幹病院・高度急性期病院」として、これまでを継承・発展しつつ、「より適切な地域医療連携が構築できる」「より多くの患者さんに選んでもらえる」「より良い医療を提供できる」「より良い医療人になる」ように、職員一同、今後も努力を続けてゆきますので、更なるご支援ご鞭撻ご協力を賜りたくよろしくごお願い申し上げます。

## 管理メンバーからのあいさつ

### 副院長 阿南 英明

新型コロナウイルスに翻弄された3年間が過ぎ、この感染症も取り込んで地域の日常医療を再構築する新年度になりました。私自身は2017年の診療部長職を拝命してから院内診療部門の活性化と地域医療機関との連携強化に努め、2019年の副院長就任後に、一層病院経営改善の具現化に着手していました。しかし、2020年2月から神奈川県および国の新型コロナ対応の場面において、健康危機管理分野での活動に専念せざるを得ない状況になりました。長く病院を不在にしましたが、診療部、看護部、医療安全管理部、事務局一同が頑張ったこの難局を乗り越えてきました。そして2023年、我々病院幹部は新副院長、新看護部長、新事務局長を率いて、西川新院長を旗頭とした体制がスタートします。コロナ問題は様々な本邦の医療構造の課題を浮き彫りにし、市民病院の課題も明確になりました。今後革命的なDXの波が医療界を席卷します。New医療構造改革を皆様と柔軟に実践していこうではありませんか。

### 副院長 岩瀬 滋

この度、2023年4月に藤沢市民病院副院長に就任いたしました岩瀬滋でございます。同時に医療技術部長、医療安全管理部長、栄養室長、患者総合支援センター長、内視鏡室長も兼務させていただきます。

現代の医療は総合力が試されます。医師、看護師、薬剤師、臨床検査技師、診療放射線技師、臨床工学室、リハビリ室、栄養室などの医療職、さらには医療職以外の事務、助手、ドクターエイドなどすべての医療に関わる人々の少しずつ関わる業務の総和で最後には大きな違いを生むこととなります。

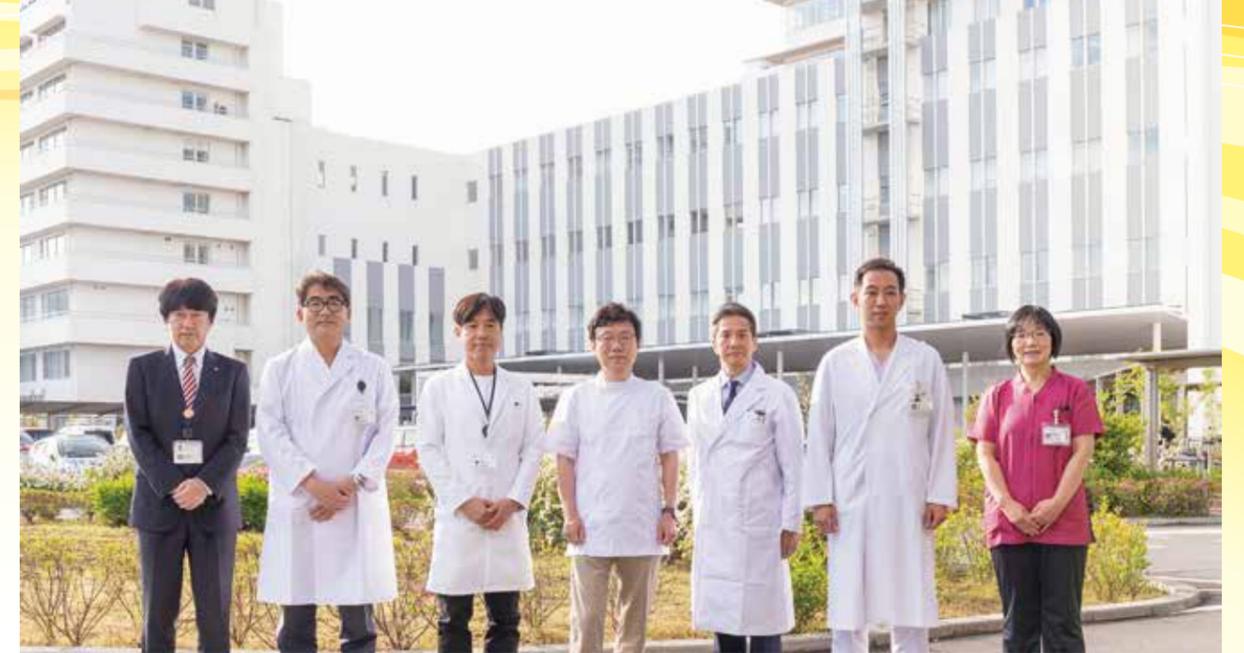
当院の医療に関わる皆さんと共に、一人一人がその責任の一端を負っているという自覚の元、当院の医療を少しでもレベルアップできるように努めていく所存であります。

今後とも地域の連携登録医、病院、訪問看護ステーション、地域包括支援センターなどの皆様のご協力、お力添えをいただきまして進めてまいりたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

### 副院長 山岸 茂

今春から副院長兼診療部長を拝命いたしました山岸茂です。2010年4月に藤沢市民病院外科に着任し、腹腔鏡手術・ロボット支援手術の導入に携わり、2019年4月からは医療安全と患者総合支援センターの業務を主に担当してまいりました。これから副院長として、「よりよい医療を提供する病院、市民から選ばれる病院」を目標に、西川院長を中心に一致団結して精進する所存です。また、診療部長としては、がん診療と救急医療を中心に、各診療科の質の向上を図りたいと考えております。

当院の特徴は、地域がん診療連携拠点病院、がんゲノム医療連携病院として地域のがん診療を担っていること、3次救急施設としての救命救急センターでは、心肺停止、多発外傷、脳血管疾患、循環器疾患、敗血症などの重篤疾患に対応していることです。また、周産期医療では母児同室運用を開始し、2022年6月には生体腎移植を開始しております。このように高度化、複雑化する医療の現場ですが、安心・安全な医療の提供に努めてまいります。これからもどうぞよろしくお願いいたします。



左から 中村事務局長・岩瀬副院長・鈴木副院長・西川院長・阿南副院長・山岸副院長・坂上看護部長

### 副院長 鈴木 勇三

2022年7月より非常勤副院長を務めております藤沢市医師会理事・クローバーホスピタル病院長の鈴木勇三です。藤沢生まれ・藤沢育ちで、医師のスタートは当院研修医で始まりました。呼吸器内科・救急科のOBになります。医師会では病診連携と公衆衛生を担当しており、市民病院とかかりつけ医との連携(病診連携)、市民病院と市内病院との連携(病病連携)をさらに発展させ、これからの高齢者救急体制の整備も含めて、湘南藤沢の地域医療構築を進めていきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

### 看護部長 坂上 雅子

桜の花が咲き誇る2023年4月に看護部長を拝命いたしました坂上雅子でございます。

藤沢市民病院看護師の役割は、寄り添い、適切なケアを行い、暮らしに戻る支援を行うことだと思います。看護の「看」は、「手」と「目」です。五感をフルに使いながら「観察の強化」と、自分の思いはしっかりと伝え、相手の話は最後まで傾聴する「対話」を元にチームワークを大切にしながら「つなぐ看護」に邁進してまいります。

看護部には、さまざまな専門知識や技術を習得した専門・認定・特定行為研修修了看護師が数多く働いております。看護師一人ひとりの専門性を活かしながら、お子さんからお年寄りまで幅広い患者さんに対して「つなぐ看護」を実践し、看護における地域連携に努めてまいりますので、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

### 事務局長 中村 大

本市は「郷土愛あふれる藤沢 松風に人の和うるわし湘南の元気都市」の実現を目指しております。

こうした中、「藤沢市市政運営の総合指針2024」における5つのまちづくりテーマのひとつ「安全で安心な暮らしを築く」の中で当院は、高度急性期医療、周産期医療などを担う地域の基幹病院として、安全で安心な質の高い医療の提供が求められております。

また、病院運営の基本理念のひとつとして「地域医療に貢献します」と掲げております。

今後とも当院は、地域の皆様に信頼され選ばれる病院をめざし、事務局としてより一層、その機能を果たしていかなければならないと考えておりますので、地域の皆様からの特段のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。